

歩行空間ネットワークデータ整備ツール(試行版)の概要・利用上の留意点

1. 歩行空間ネットワークデータ整備ツール(試行版)の概要

「歩行空間ネットワークデータ整備ツール(試行版)」(以下、「データ整備ツール」)は、「歩行空間ネットワークデータ等整備仕様案(平成29年3月版)※」に基づき、歩行空間ネットワークデータの作成(新規作成・編集)と作成したデータの閲覧を行うことができるWebツールです。

歩行空間ネットワークデータは、段差や縦断勾配等のバリア情報を含んだ歩行空間の状況を表すデータで、歩行空間のバリアフリーに関する情報を付与した線データ「リンク」と、リンクの結節点である点データ「ノード」により構成されます。

データ整備ツールを用いた歩行空間ネットワークデータの作成は、国土地理院の地理院地図を背景情報とし、図形(リンク・ノード)の入力を行い、リンクとノードに付与する属性情報は、「歩行空間ネットワークデータ等整備仕様案(平成29年3月版)」で定義している必須項目に従い選択入力します。作成した歩行空間ネットワークデータの形状と属性情報の内容は、閲覧機能で確認できます。また、作成したデータをCSV、Shapefile、GeoJSONの形式で出力するエクスポート機能、データ整備ツール以外の方法で作成したデータを、データ整備ツールに取り込むインポート機能を備えています。



※ 「歩行空間ネットワークデータ等整備仕様案(平成29年3月版)」: <http://www.mlit.go.jp/common/001177504.pdf>

表 1 ユーザ用機能

機能		内容
データ新規作成・編集	データ追加	・図形と属性情報の入力を行う機能。図形は、連続する複数のリンクを入力することができ、入力した図形（リンク・ノード）に対し同じ属性情報を登録することが可能。
	図形編集	・「データ追加」機能で入力した図形の形状修正と削除を行う機能。
	属性編集	・「データ追加」機能で入力した属性情報を修正する機能。
データ閲覧		・作成したデータの図形形状と、リンクとノードそれぞれの属性情報を閲覧する機能。
エクスポート		・データ整備ツールを用いて作成したデータを、CSV、Shapefile、GeoJSON の形式でエクスポートする機能。
インポート		・データ整備ツール以外で作成したデータを、データ整備ツールにインポートする機能。CSV、Shapefile、GeoJSON いずれかの形式で作成されたデータのインポートを行う。

表 2 管理者用機能

機能	内容
管理者管理	・データ整備ツールの管理者情報（ユーザ名、パスワード等）の登録・編集・削除を行う機能。
ユーザ管理	・データ整備ツールのユーザ情報（ユーザ名、パスワード等）の登録・編集・削除を行う機能。
データ一覧表示	・データ整備ツールを用いて作成したデータの名称、作成者、作成日時等を一覧表示する機能。

2. 図形に入力する属性情報

データ整備ツールは、「歩行空間ネットワークデータ等整備仕様案（平成 29 年 3 月版）」で定義している必須の情報項目に従い、リンクとノードそれぞれについて属性情報を入力します。

表 3 リンクに入力する属性情報

情報項目	属性情報	
経路の構造	1: 車道と歩道の物理的な分離あり 2: 車道と歩道の物理的な分離なし 3: 横断歩道 4: 横断歩道の路面標示の無い道路の横断部 5: 地下通路 6: 歩道橋 99: その他	
経路の種別	0: 対応する属性情報なし 1: 動く歩道 2: 踏切 3: エレベーター 4: エスカレーター 5: 階段 6: スロープ 99: その他	
方向性	0: 両方向 1: 起点より終点方向 2: 終点より起点方向 99: 不明	
幅員	0: 1.0m 未満 (車いすの通行不可能) 1: 1.0m 以上~2.0m 未満 (車いすの通行可能 (すれ違い困難)) 2: 2.0m 以上~3.0m 未満 (車いすの通行可能 (すれ違い可能)) 3: 3.0m 以上 (車いすの通行に支障なし) 99: 不明	
縦断勾配	0: 5%以下 (車いすの通行に支障なし) 1: 5%より大きい (車いすの通行に支障あり) 99: 不明	
段差	0: 2cm 以下 (車いすの通行に支障なし) 1: 2cm より大きい (車いすの通行に支障あり) 99: 不明	
歩行者用信号	【信号の有無】 0: 歩行者用信号なし 1: 歩車分離式信号あり 2: 押しボタン式信号あり 3: これら以外の信号 99: 不明	【信号の種別】 0: 音響設備なし 1: 音響設備あり (音響用押しボタンなし) 2: 音響設備あり (音響用押しボタンあり) 99: 不明
視覚障害者誘導用ブロック等の有無	0: 視覚障害者誘導用ブロック等なし 1: 視覚障害者誘導用ブロック等あり 99: 不明	
エレベーターの種別	0: エレベーターなし 1: エレベーターあり (バリアフリー対応なし) 2: エレベーターあり (バリアフリー対応あり) 99: 不明	

表 4 ノードに入力する属性情報

情報項目	属性情報
階層数	階層数 (中間階は、「1.5」等の小数点で表現する。屋外は「0」とする。)

3. 動作環境

データ整備ツールは、クラウド・サーバにインストールして使用します。データ整備ツールの機能は、PC 又はタブレット端末を用いて、ブラウザを介して使用します。

表 5 推奨動作環境

サーバ側	・サーバ：メモリ 2GB 以上、ストレージ SSD 50GB 以上、CPU 3Core 以上 ・OS：Ubuntu 16.04 amd64 ・その他：Apache 2.4.18 以上、MySQL 5.7.16 以上、Python 3.5.2 以上
クライアント側	・PC：Windows (Windows10、Chrome) Mac (macOS10.12 以上、Safari) ・タブレット端末：iPad (iOS10.3 以上、Safari) Android タブレット (Android5.1.1 以上、Chrome)

4. 利用対象者

データ整備ツールは、歩行者移動支援に関する取組を行う国の機関・地方公共団体・大学等の研究機関に限り利用できるものとします。

5. 利用方法

データ整備ツールの利用にあたっては、利用許諾書に同意した上で、所定の利用申請書にご記入の上、国土交通省総合政策局総務課長宛に提出してください。

申請者宛にデータ整備ツールに関するプログラムファイル、セットアップ手順書一式を、CD-R 等によりご提供します。

なお、データ整備ツールは無償で利用することができます。

6. 利用上の留意点

- ・ データ整備ツールの利用に必要な各種データやサーバ等の利用環境は、利用者において用意してください。
- ・ データ整備ツールの性能及び実行結果等について、国土交通省はいかなる保証も行いません。また、国土交通省は、データ整備ツールの利用に起因する利用者の直接的又は間接的な損害及び第三者に対する損害を含むいかなる損害についても、事由の如何を問わず一切の責任を負いません。

7. 著作権等

データ整備ツールは、国土交通省の監修の下、株式会社パスコと共同で開発したツールです。

データ整備ツールの著作権その他の知的財産権は国土交通省及び株式会社パスコに帰属します。